

■性は多様

性のありようは多様で複雑です。自分の性別をどう認識しているか(性自認)、誰が好きか(性的指向)もさまざまです。また、外見(性別表現)と身体や自己認識が一致しているとも限りません。同性や両性に恋愛感情を持つ人、出生時とは異なる性で生きる人など、LGBTQや性的マイノリティといわれる人たちは、ずっと昔から、もちろん奈良県にも暮らしています。

外見あるいは書類上の「男か女のどちらか」で「異性を好きになる」ことが前提となっている社会の中で、性的マイノリティの人たちは「いないこと」になっています。毎日の暮らしの中で、不便や生きにくさを感じる場面がたくさんあります。人々の「あたりまえ」や「ふつう」から外れた存在は、いじめや偏見の対象にもなっています。

■こんな活動をしています

「性と生を考える会」の活動は性を人権の視点で考えるところから出発しました。会費も名簿もないゆるやかなネットワーク型の集まりですが、活動は提案型のプロジェクト形式で継続しています。タブー視されがちな性について、語り合える場、考え学べる場を作ることを目的に、学習会を企画・開催したり、奈良県内の自治体及び関係機関への要望書や陳情書、意見の提出など地域への働きかけを行ってきたりしました。また、性的マイノリティの存在や多様な性のありようについて知ってもらえるよう、人権啓発イベントでの展示、冊子の発行、研修会への講師派遣、相談活動、資料や教材の制作協力など、情報発信や啓発活動を行っています。

■めざすこと

活動の目的は、性別・性自認・性的指向・性別表現にもかかわらず、誰もが尊厳を守られ、自分らしく安心して暮らせる奈良県にしたいということです。例えば、自分らしいと思う髪型や服装で通学や通勤ができる、愛する人と共に安心して暮らせる、同性パートナー等その人の大切な存在が「家

性と生を考える会

族」として尊重される、周囲とのちがいを理由に差別や暴力を受けない、マイノリティであることで選択肢を奪われない、必要な医療や福祉サービスを安心して利用できる…そんな公平な社会をめざしています。

そのためには、学校などの教育の場、職場、医療や福祉の環境、地域などあらゆる生活場面で、多様性が尊重される環境が整うこと、今ある問題が改善されていくことが必要でしょう。

■最後に

性的マイノリティの人々をとりまく問題は、特別な人たちの特別な(個人的な)問題ではなく、一生を通じた生活と命にかかわる問題であり、人がどう生きていくかという尊厳にかかわる問題です。マイノリティ当事者の声から何が見えるのか、どうして困っているのか、問題解決のためにできることを考え実行し、社会の中にある障壁が解消する。そのことが、他の多くの人たちにとっても、暮らしやすい環境につながることを願います。

マイノリティかどうかにかかわらず、地域にはさまざまな人が共に暮らしています。ちがいや困り事もさまざまです。よくわからない、理解しがたいと思っても否定しないでほしい、ちがいをありのまま受けとめて尊重してほしいと思います。自分基準で決めつけたり、よかれと思っておしつたりするのではなく、敬意をもって接することが、多様な人々が共に暮らすための一歩だと思います。

性と生を考える会

■2000(平成12)年設立

■E-mail nakatah@kih.biglobe.ne.jp

■HP <https://seitosei.wixsite.com/website>

■制作冊子(ホームページ参照)

「教職員／介護職／看護職のための性的マイノリティサポートブック」

「性の多様性を知って考えるためのヒント集」

「わたしたちはここにいる 性的マイノリティの声：奈良県版」

「子どもの声から考える 性の多様性が尊重される学校づくり」